

第39回定期総会の発言③ 青年部活動の活性化をめざして

森 知美(青年部事務局長)

青年部では、不定期ではありますが、部会を開催し、ときには飲み会で交流を深めています。昨年の主な活動としては、5月に北見で行われた全道業者青年交流会、融資・助成金学習会、6月から7月にかけて業者青年実態調査アンケートの取り組み、11月には全国の総会にむけて部員をふやす行動などです。

5月の全道業者青年交流会では、全道の民商から30人が参加し、中部からは3名が参加しています。さまざまな商売を見て、経験を聞いて、自分の商売につながるように学ぶことを目的にフィールドワークが行われ、建設業と養鶏を営む会員、運動特化型のデイサービス施設、集材生産工場、洋服店、ホタテの養殖、オリジナル商品を開発す



▲総会発言を聞く役員・代議員

るスーパーを訪問見学しました。普段目にするのでできない作業場や他業種の仕事にふれ商売の考え方や苦労などを聞くことができ、とても有意義な体験となりました。

業者青年実態調査アンケートの取り組みでは、86の目標を上回る93名からアンケートを集めることができました。青年部だけではなく横江会長をはじめ多くの方に協力いただき集めることができました。この場をかりてお礼申し上げます。ありがとうございます。

実態調査の北海道の集計結果をみると、困難な実態とその原因がみえてきます。商売・仕事を続ける上で困っていることでは「顧客の減少」がトップで(38.4%)続いて「仕事の減少」が(38.0%)、「低単価・低工賃」(35.7%)、「高い税金」が(33.3%)と高くなっています。また、「所得100万円未満」は(12.9%)、「所得100万円から200万円未満」は(23.1%)に上り、「生活しているだけの収入・給与が「とれない」(38.1%)となっていて、とれない分は何で補って

いるかというところ「他の家族の収入・援助」(34.0%)、「借金」(30.9%)、「貯金の取り崩し」が(16.5%)となっています。消費税をお客さん・取引先から「もらえないときがある」(43.1%)%にも上り、経営基盤の安定を阻害しています。

「生活上の問題で困っていること」の上位は「高い国保料」(49.8%)、「高い年金保険料」(40.8%)となっています。このように実態調査の結果をみると、一人ひとりの努力だけでは解決していけない日本社会のゆがんだ構造がみえてきます。先日「業者青年の未来を奪う消費税増税法案の決定に断固抗議する」という全商連青年部協議会の議長声明が発表されました。今でさえ高い税金に苦しんでいるのにこれ以上の増税は許せません。青年部としても消費税増税阻止のために力をつくしたいと思っています。

11月の部員をふやす取り組みでは、工藤部長を中心にススキノ飲食店をまわり「青年部に入りませんか」と声をかけ、3名が入ってくれました。4名ふやすという目標にはとどきませんでした。2割以上単純拡大し、現勢で総会を上回ることができました。今後は民商会員比1割をめざして青年部員をふやしていくことと思います。みなさんのまわりで20代・30代の業者青年が紹介してください。よろしくお願いいたします。

最後に今後の活動についてですが、今月4月13日に部会をひらき、これからの活動について話し合いました。今年9月に全道業者青年交流会が宮城県で行われることになっていきます。被災地ということもあり、「この機会に自分の目で見てくるのは大事なことでないだろうか」「行きたい部員全員が参加できるようにしたい」という意見がだされました。青年部としては、多くの部員を送りだせるようにしていきます。

また、フェイスブックなどのSNSも活用しながら、部員同士の交流を大切に、業者青年ならではの悩みや困難な状況を出し合い、みんなで解決していける青年部をめざしていきます。

全商連では、「業者青年に魅力ある民商づくりは、民商・全商連運動の重要な課題と位置づけています。業者青年に魅力ある民商をつくっていくため、本会の役員さんと懇談することも大事だと思っています。今後ともみなさんとともにがんばる決意を述べ、私の発言を終わります。